

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に漂着した頭足類（軟体動物）

Cephalopoda (Mollusca) stranded on the “Kitahama” beach in front of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, Shirahama, Wakayama, Japan

久保田 信*・奥谷喬司** Kubota, Shin* & Okutani, Takashi**

*京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所（〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459）

**東京水産大学名誉教授

はじめに

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”などへ、2002 年までの 10 年間に漂着した頭足類（Cephalopoda）1 亜綱 1 目 2 科 2 属 6 種について以前報告した（久保田・小山, 2002）。その後、同区域において更に 12 年間の継続調査をしたところ、新たな種類などについてその一部を報告したが（久保田, 2004, 2006a, b, 2012; 久保田ほか, 2010; 久保田ほか, 2013）、更なる未記録種の漂着もあったので、今回これらも含めた 2014 年までの 22 年間の漂着記録をまとめて報告する。

結果と考察

以下のリストにまとめたとおり、頭足綱に属する 2 亜綱 3 目 3 科 5 属 13 種が、“北浜”へ 2014 年までの 22 年間に漂着した。種数は前報（久保田・小山, 2002; 本リストで*をつけた種）の 2 倍となった。それらの殻や甲を写真で紹介する（図 1–8）。卵囊塊が頻繁に海藻にからんで打ち上がるアオリイカ（久保田, 2006b）についても、今回のリストに含めた。

以下のリストは日本近海産貝類図鑑（窪寺, 2000）の掲載順に並べた。多数が漂着する 2 種（コウイカとカミナリイカ）には#を記した。カミナリイカの甲は、年によっては冬季に大量に漂着する（紀伊民報, 2010）。コウイカの甲は年中漂着が見られる。他種の甲は稀にしか流れ着かないが、その内ではシシイカが最も頻繁に漂着する。また軟体部がわずかでも付いた個体は、めったに流れ着かない。なお、少数の不明種があったが、それらはリストには掲載していない。

（漂着種リスト）

オウムガイ亜綱

オウムガイ目

オウムガイ科

オウムガイ *Nautilus pompilius* Linnaeus, 1758 (図 1)

二鯉亜綱 Coleoidea

コウイカ目 Sepioida

コウイカ科 Sepiidae

コブシメ *Sepia (Sepia) latimanus* Quoy and Gaimard, 1832 (図 2, 左)

*カミナリイカ *S. (Acanthosepion) lycidas* Gray, 1849 (図 3)

トラフコウイカ *S. (A.) pharaonis* Ehrenberg, 1831 (図 2, 右上)

*#コウイカ *S. (Platysepia) esculenta* Hoyle, 1885 (図 2, 右下)

*シシイカ *S. (Dorotosepion) peterseni* Appellöf, 1886 (図 4, 5, 左端)

*ヒメコウイカ *S. (D.) kubiensis* Hoyle, 1885 (図 4, 5, 右端)

*ウスベニコウイカ *S. (D.) lorigera* Wülker, 1910 (図 4, 5, 右から 2 番目)

テナガコウイカ *S. (D.) longipes* Sasaki, 1913 (図 4, 5, 左から 2 番目)

シリヤケイカ *Sepiella japonica* Sasaki, 1929 (図 6)

ツツイカ目 Teuthoidea

ヤリイカ科 Loliginidae

アオリイカ *Sepioteuthis lessoniana* Lesson, 1830 (図 7)

八腕形目 Octopoda

カイダコ科 Aragonautidae

アオイガイ *Aragonauta argo* Linnaeus, 1758 (図 8)

*タコブネ *A. hians* (Lightfoot, 1786) (図 9)

チヂミタコブネ *A. bottgeri* Maltzan, 1888 (図 10)



図 1. オウムガイ



図 2. コブシメ (左端)、トラフコウイカ (右上)、コウイカ (右下 2 個、大きい方は磨滅したものと思われる) の甲



図 4-5. 左から右へ：シシイカ、テナガコウイカ、ウスベニコウイカ、ヒメコウイカの甲 (4: 背面; 5: 腹面)



図 3. カミナリイカの甲とそれに付着していた軟体の一部



図 6. シリヤケイカの甲



図 7. アオリイカの卵囊塊



図 8. アオイガイ



図 9. タコブネ



図 10. チヂミタコブネの貝殻

引用文献

- 紀伊民報. 2010. 南方系のイカ甲 冬季に大量漂着.
久保田 信・小山安生. 2002. 番所崎, 特に“北浜”
(和歌山県白浜町)へ打ち上げられた軟体動物
貝殻目録(2). 南紀生物, 44(2): 133-139.
久保田 信. 2004. コブシメ(コウイカ目、コウイ
カ科)の甲の和歌山県沿岸への4例日の漂着.
本党寺村貝, (42): 37-39.
久保田 信. 2006a. 和歌山県白浜町沿岸に漂着
したコブシメの奇形の小型の甲. 南紀生物,
48(2): 134.
久保田 信. 2006b. 宝の海から一白浜で出会っ
た生きものたち. 233 pp., 紀伊民報, 田辺市.
久保田 信・檜山嘉郎・山本泰司・田名瀬英朋・
湊 宏・小山安生. 2010. 和歌山県白浜町沿
岸へのオウムガイ(オウムガイ科)の漂着記
録4例. 南紀生物, 52(1): 79-80.
久保田 信. 2012. 和歌山県沿岸に漂着したコブ
シメ(コウイカ目、コウイカ科)の甲. 瀬戸臨
海実験所年報, 25: 44.
久保田 信・田名瀬英朋・湯浅 2013. 和歌山県
西牟婁郡白浜町番所崎、京都大学瀬戸臨海
実験所“北浜”と“南浜”および白浜沖か
ら採集したタコブネ(頭足類)の貝殻. 南
紀生物, 55(1): 57-58.
窪寺恒己. 2000. 頭足綱. 奥谷喬司(編著) 日本
近海産貝類図鑑. pp. 1048-1089. 東海大学
出版会, 東京.